



宗四小だより

6月号

志木市立宗岡第四小学校

志木市上宗岡1-1-2

048-473-5250

<http://www.mune4syo.ed.jp/>

児童数 571 名 令和3年5月25日発行



目指す学校像『笑顔・感動いっぱい 虹色に輝く みんなの学校』



「非認知能力を高める」

校長 高柳 政行

非認知能力?・・・最近、耳にすることが多くなったと思いませんか?
近年、コミュニケーション能力や忍耐力などの点数化できない能力を「非認知能力」と言うようになりました。そして、これらの能力こそ、これからの子どもたちに必要となる力であると世界中から関心が集まっているのです。

日本も例外ではなく、2017年3月の新しい学習指導要領で新たに表記された「学びに向かう力や人間性等」がまさにそれです。文部科学省が求める非認知能力(スキル)とは、学力(認知能力)と対照的に用いられる言葉であり、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった測定できない個人の特性による能力の全般を指すと説明しています。

すでに配布済みの宗四小・学校教育短期目標の3つの資質・能力の一つ「学びに向かう力・人間性の涵養」の部分をご覧ください。具体例で考えてみたいと思います。

はじめに「はたらく子ども」の目標欄に注目してみます。おしゃべりしながら、だらだらと床そうじをしている場合と、しゃべらずに、床の隅々まで意識し集中してそうじをする場合を比べてみてください。日々後者のように取組むならば、忍耐力や自制心、粘り強さなどの力が身についていくことでしょう。また、クラスみんなで教室をきれいにしようとする意識が高まるなら協調性も育成されることでしょう。6年生が1年生に、そうじの仕方を教えたり、手伝ったりする取組みをしてくれていますが、1年生のために役立つとする心持ちや教え方を考え、工夫するなど創造性の力も育成されるでしょう。

次に、「思いやりのある子ども」の目標欄に注目してみます。毎朝の登校中、地域の方に、自分から「おはようございます」とあいさつをするのと、しないのでは、コミュニケーション能力に差が出てくることでしょう。「いつも挨拶をしてくれて気持ちがいいよ」「ありがとうございます」など、豊かな会話ができるかもしれません。登校班の上級生が時々後ろを向いて「速すぎないかな」という顔をして1、2年生を気遣う場面があります。それは、忍耐力や自制心を育むことにつながるかもしれません。反対に1、2年生が上級生にしっかりついていこうと協力しようとするれば、それは、協調性にもつながるでしょう。また、はさみを人に手渡しする時、刃先ではなく持ち手を相手に向けたり、後ろの席の人にプリントを手渡しする時、相手を取りやすいように渡したりする場面を想像してみてください。どんな力につながっていくと思いますか。

ここで、はじめに示した床そうじの例を家庭でのお風呂そうじ当番に置き換えてみてください。浴槽がきれいになるという「目に見える結果」だけでなく、毎日、繰り返しお風呂そうじすることに対して「しんぼう強くやってくれるね」などと過程を認めたらどうでしょう。学校や家庭で、このような意欲をもってやりぬく「しんぼう強さ」が身につくなら、おのずから勉強も頑張っていけるのではないのでしょうか。つまり、非認知能力は、テストの点数など認知能力をつける土台になっていくのです。しかし、ここで大事なことは、非認知能力は、付けるものではなく、自ら伸ばすものであるということです。周囲の大人の多様な仕掛けが大切となってきますが、焦りは禁物です。

AI(人工知能)が発達し、人間の仕事の一部が奪われていくと言われる未来社会を子ども達は生きていくこととなります。AIが得意なのは、認知能力です。しかし、このAIにはできない、または、苦手な分野とされるのが、この非認知能力です。ですから、学校でも、家庭や地域でも、意欲的に目標を見つけたり、他者を気遣ったりする力などをこれまで以上に大事にしていきたいと考えます。

☆5月22日(土)の運動会では、宗四小の子ども達のため、多くの保護者の皆様に応援いただきありがとうございました。子ども達は、見られることで、緊張しつつも自分の力を出し切ろうと精一杯、頑張っていたと思います。



「笑顔・感動いっぱい虹色に輝くみんなの学校」にするためのアイデア募集から

